

令和二年度

福島再生・未来志向シンポジウム

～いっしょに考える「福島、その先の環境へ。」～

2日目 現地見学会

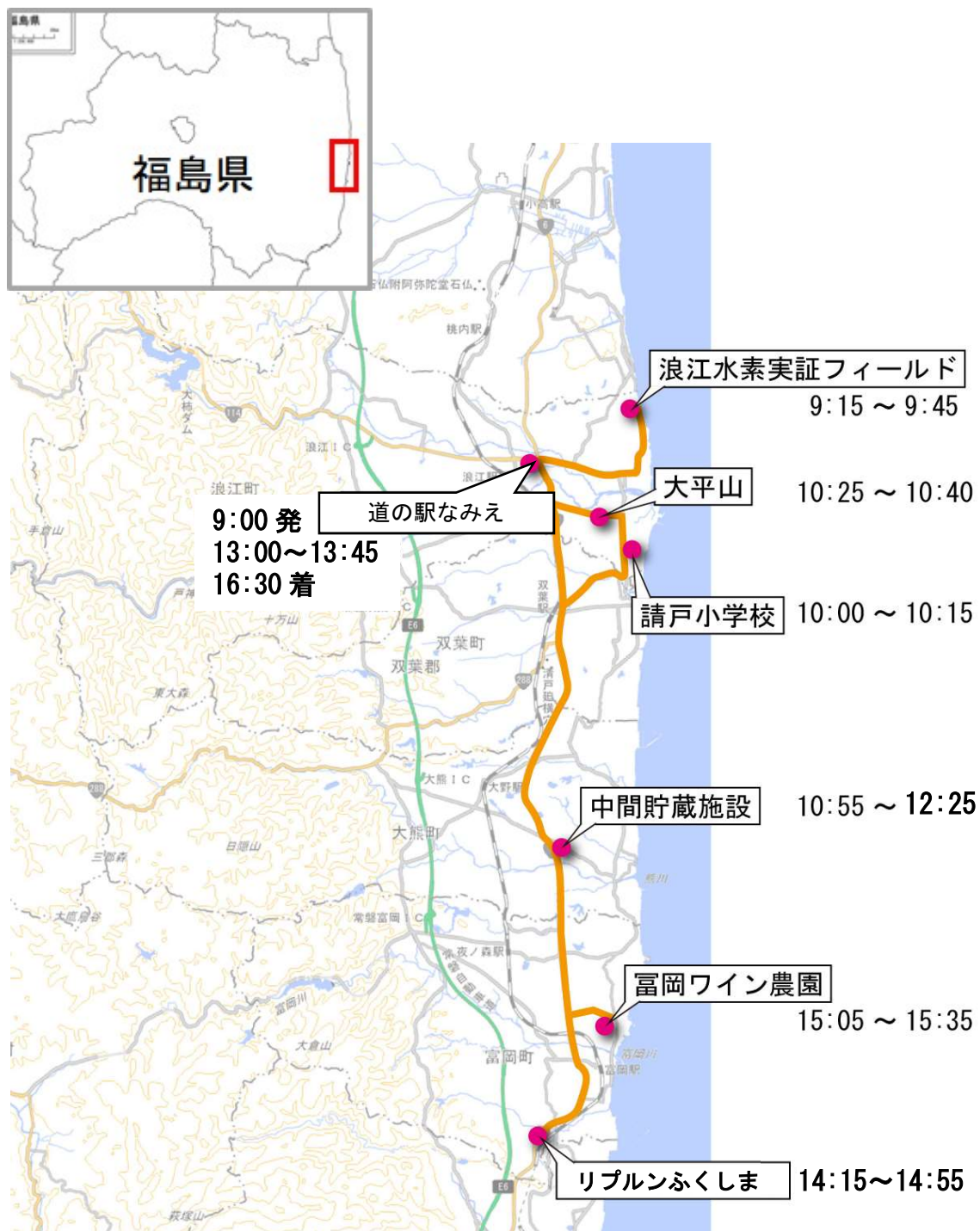
開催報告

目 次

I	見学行程	1
II	見学施設	3
1	浪江水素実証フィールド	3
2	請戸小学校	4
3	大平山	5
4	中間貯蔵施設	6
5	リプルンふくしま	7
6	富岡ワイン農地	8
7	長泥再生事業地	9
III	アンケート結果	15

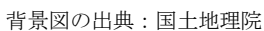
I 見学行程

A 班



背景図の出典：国土地理院

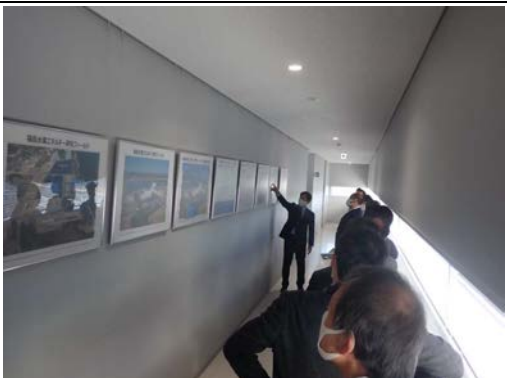
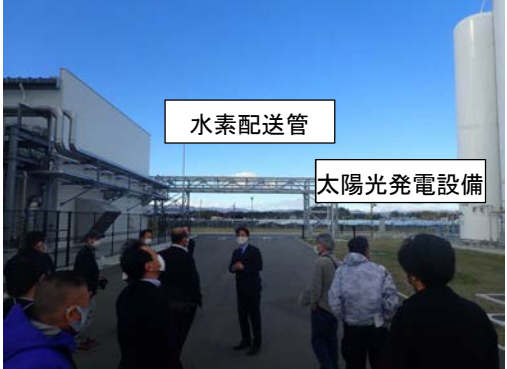
B班



Ⅱ 見学施設

① 浪江水素実証フィールド

管理棟の中のパネルを用い水素製造の仕組みや場内全体の設備の概要の説明を受けた後、構内の設備を見学した。水素貯蔵タンクや、水素配送管、隣接する太陽光発電設備、供給用トレーラー等、実際の設備を見学し、水素製造から貯蔵、供給の一連の流れを学ぶと共に施設の規模感などを学ぶことができた。

	
写真①-1 福島水素実証エネルギーフィールド	写真①-2 管理棟内での説明
 水電解装置 水素貯蔵タンク	 水素配送管 太陽光発電設備
写真①-3 施設見学①	写真①-4 施設見学②
	
写真①-5 供給用トレーラー	写真①-6 太陽光発電設備

② 請戸小学校

請戸小学校は、建物内には入ることが出来なかったが、入り口部で地域の方から、東日本大震災の津波被害の傷痕が色濃く残っていること、当時の避難の状況などのお話を伺った。教員の皆さんの事前の防災訓練、児童を父兄に引き渡さず全員で大平山へ最短経路で避難し、無事だったとのことであった。なお、請戸小学校は震災以降として2021年の公開に向けた保存工事中であった。



写真②-1 請戸小学校近景



写真②-2 津波被害時刻で止まっている時計



写真②-3 施設見学の状況



写真②-4 沿岸部の防波堤工事の状況

③ 大平山

大平山霊園から海を望むと、請戸小学校やその周辺の除染事業の工事の様子が一望できた。大平山は、請戸小学校の児童等が避難し全員が何を逃れた場所である。東日本大震災では、周辺の集落は津波被害にあい、さらにその翌日には東京電力福島第一原子力発電所の事故により国から避難指示が発令され、捜索や救助を断念せざるを得なかったという解説がなされた。請戸の大平山霊園には、町の方で津波の犠牲になられた方の鎮魂と町の復興、後世への震災の訓戒のために慰霊碑が建てられ、シンボルとなっている。



写真③-1 大平山霊園入り口



写真③-2 霊園見学の状況



写真③-3 慰霊碑



写真③-4 霊園から沿岸部

④ 中間貯蔵施設

中間貯蔵施設は、福島県内の除染に伴い発生した土壌や廃棄物等を最終処分までの間、安全に集中的に貯蔵する施設として、東京電力福島第一原子力発電所を取り囲む形で、大熊町・双葉町に整備されている。見学会では、中間貯蔵施設工事情報センターにてまず事業の解説を受けた後、バスで帰還困難区域内に入り、社内から沿道の仮置場や土壌運搬用ベルトコンベアなどを見学した。受入・分別施設では、建物内で解説を受けた後、実際に処理を行っている現場の見学を行った。また、土壌貯蔵施設（大熊③工区）では、現地で工事の状況などを見学することができ、実際の事業の規模感等を感じることが出来た。その他、被災当時の状況が残る旧水産種苗研究所や仮置場等を車窓から見学した。



写真④-1 中間貯蔵工事情報センター入り口



写真④-2 情報センター内での説明①



写真④-3 情報センター内での説明②



写真④-4 帰還困難区域内 沿道の状況



写真④-5 受入・分別施設



写真④-6 土壌運搬用ベルトコンベア

⑤ リプルンふくしま

リプルンふくしまでは、展示館内で除染の仕組みや福島放射線量の移り変わり、線量を下げするための取組等について学んだ後、モニタリングサイトで空間線量計を用いた実際の線量測定体験等を行った。実際の空間線量計を使った測定体験は、放射線量の数値を身をもって学ぶことができる良い機会となった。



写真⑤-1 リプルン入り口部



写真⑤-2 リプルン内での説明①



写真⑤-3 リプルン内での説明②



写真⑤-4 リプルン内での説明③



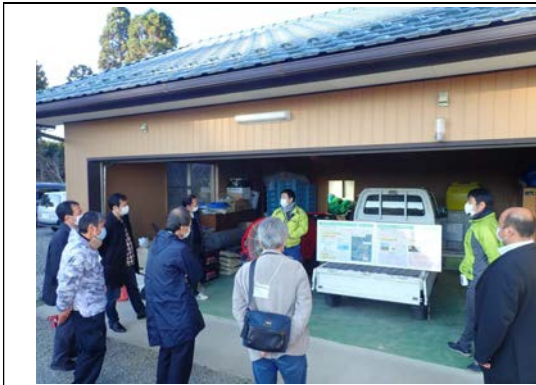
⑤-5 空間線量計の体験①



⑤-6 空間線量計の体験②

⑥ 富岡ワイン農地

富岡ワイン農地（小浜栽培圃場）では、とみおかワインドメーヌ代表から、2018～2019年度に実施した環境省 FS 事業（IoT の農業への活用等）の説明の後、ワイン圃場内で現在の事業の状況等についての説明を受けた。2016 年度から開始したブドウ栽培は、地域のボランティア等の協力を得ながら 2020 年度にはワイン醸造にこぎ着けたとのことであった。富岡駅近くにはまた新たな圃場を設け、地域振興に貢献したいとのことであった。



写真⑥-1 パネルを用いた説明



写真⑥-2 ワイン農地見学①



写真⑥-3 ワイン農地見学②



写真⑥-4 ワイン農地見学③

⑦ 長泥再生事業地

長泥再生事業地では、放射能濃度が 1kg あたり 5,000Bq 以下の汚染土壌を、異物除去などの工程を経て再生資材化し、農地造成予定地の盛土として利用している。農地造成予定地に盛土された再生資材は、汚染されていない遮へい土で覆われて農地が造成されており、見学会では、露地とビニールハウスでの実証の状況や、農地造成の状況を見学しながら、解説を受けた。花卉類のほか、野菜の実証実験も行われており、9 月までに収穫された作物の放射性セシウムの濃度は、厚生労働省の一般食品に関する基準値を大きく下回る結果とのことであった。広い平坦地で圃場を分けて、それぞれ整備や実証が進められている状況を見学でき、事業の流れも実感することができた。



写真⑦-1 駐車場での説明の様子



写真⑦-2 露地栽培農地の見学



Ⅲ アンケート結果

現地見学会の終了後、出席者の皆さんにアンケートをお願いしました。
その結果（抜粋）を以下に示します。

Q.現地見学会の感想（一部抜粋）

- 実際に自分の目で見て感じる機会をいただけてよかった。
- 現地でお話を伺うことで理解が深まった。
- 各施設で丁寧に説明してもらえて勉強になりました。
- 復興の現場を実際に見れてよかったです。
- 数年前、全く手付かずだった汚染土の山が予想以上になくなっていた。しかしこれから先は依然気のとくなる道のり。
- 飯館村の再生事業、水素実証フィールドなど、未来へ向けた動きの現地見学から始まり、中間貯蔵施設での現状、請戸小学校や大平山の震災当時の遺構という順の見学順番は良かったと思う。復興が進みつつある中で、なぜこのような現状となってしまったか、改めて考えさせられ、また気が引き締まる思いを持つことができた。
- 内容が濃い見学会であった。震災・事故から10年目であるが、訪れた町村の対応、感触が異なっていることを実感できた。皆さんの懸命な努力も改めて感じた。
- 普段入ることがないような場所や、最新の現況を実際に見て知ることが出来てとても有意義な時間だった
- 初めて訪問する場所ばかりで、新鮮だった。直接見ることでよかったと考えている。
- 各地で丁寧な説明があって良かったです。
- なかなか見ることでできない施設を見学することができ、大変勉強になりました。
- コロナ対策など種々のご配慮ありがとうございました。
- 帰還困難区域として危険なイメージしかなかった飯館村長泥において、地盤かさ上げの実験と作物・花の生育実験を射やっていて、その結果が順調であるお話をお聞きして、見えない部分が見えて、しかも順調に復興が進んでいることを肌で感じることでよかった。水素エネルギー研究フィールドにおいても、水素が今後の社会でどのように活かされていくのかについて、入り口を感じることができた。とにかく規模が大きく、水素利活用が福島復興と環境問題解決のキーワードのなるように感じた。中間貯蔵においては、一か所でまとめて保管されるイメージがあったが、細かく分散しての減容と保管で、大変な苦労をしながら、環境に万全の配慮しながら進めていることを感じた。最後に請戸小学校と大平霊園では、語り部の方の言葉が身に染みた。伝えないと地元福島のものでも知らないことがたくさんあって、ほっておくと事実が消えて行ってしまう危機感を感じた。
- 除去土壌の再生利用の場を見ることができて有意義だった。
- バスでの移動中も環境省の方による御説明をいただけたので、とても参考になりました。

Q.現地見学会の中で印象に残ったところ（一部抜粋）

- 浪江の菅野さんの話で、震災当日や直後の実情をうかがえたので。
- カーボンゼロに向け期待が持てる産業になる可能性を感じた。
- 時間の残酷さと空間の空虚さ。
- 震災時の状況から、除染という現状、将来の復興に向けたプログラムとしては、どれも欠かせないものであった。全てが印象に残った。
- 長泥と中間貯蔵は現実問題に解決策を示しつつあり、その努力に頭が下がる。請戸のは震災事故 9 年経過しても復興が見えず、震災時に全ての小学生が助かったことに嬉しく思った。その子達が今何をしているか思いをはせた。被災した方々へ鎮魂も願った。
- 被災地としての過去や現在、未来をそれぞれの場所が表していて全体としてとても印象的だった。
- 広大な敷地の立派な施設が実証実験用だということ。ただ、将来の再生可能エネルギーには必要不可欠になるであろう水素には大きな期待をしています。
- 次世代技術開発の実用化研究について詳細な説明があったため
- 初めて見学させていただいたため。また、実証の内容を分かりやすく説明していただき、勉強になった。
- 中間貯蔵施設はすでに見学経験がありましたため、それ以外の見学地がすべて印象深いものでした。
- 紙では見ていた長泥実証事業について、現地で生で見ることができた。説明も分かりやすかった。
- まちづくなみえの方の説明は、うまいし、臨場感があった。

Q.現地見学会の内容に関する意見（一部抜粋）

- 1 つ 1 つは興味深いのだが、全体としては詰め込み過ぎ。散漫な印象はシンポジウム全体にいった。
- 説明や資料は分かりやすかった。
- もっと聞きたいことはあったが、また、次回も参加したい。
- 盛り沢山の見学を企画していただき、事務局を始め、関係者にお礼に申し上げます。特に、休日にも拘わらず案内して頂いた方々に感謝します。配布されたしおり、追加資料は理解を深めるために良いものであった。
- 車内での質疑応答等もあればもっとよかったと思う。
- 時間が押し、請戸小学校と大平山の説明が短くなってしまったことが残念であった。休憩時間をもう少し短くすればよかったのではないかと考える。
- 1 日目、2 日目ともに仙台方面へのアクセスを考えていないように思いました。地元の人だけに来てもらいたいなら車があるからいいかと思いますが、公共交通機関のみで移動する人についてもう少し配慮が欲しいです。
- 皆様方が詳しく説明を頂いたので大変ためになりました。
- ありがとうございました。復興に係る取組には関心がありますので、機会があれば、今回の見学先以外のところへも参加させていただきたいと思います。
- 水素エネルギー研究フィールドについて、今後実際に充填している様子であったり、トラレーザがあづま公園や J ヴィレッジや道の駅なみえに運び込まれて、タンクの入れ替え作業とかまで含めて、一体で見学視察してみたいです。水素の製造だけでなく、製造から利用までの全体の流れを感じ取ってみたい。

[お問い合わせ]



環境省 環境再生・資源循環局

福島再生・未来志向プロジェクトチーム

電 話 03-3581-2788

メール mirai_shikou@env.go.jp